快居の会だより

快居の会受付 TEL　FAX　　06-6946-6161
〒 540-0036
大阪市中央区船越町 1-6-2-702　アトリエＶＯＩＤ内

18 号記事 －Ｔさんの住居改善特集－
■ きっかけと自立に向けて
■ 車いすで快適な生活を送るために
■ Ｔさんと両親からのコメント

両親を楽にしてあげたい・できるだけ自立したい－車イスＴさんの住居改善－

■住居改善相談のきっかけ

両親による、ほぼ全介助の住生活を送っていたＴさんが両親の介護負担も心配して、できるだけ自立的な生活を送れるようにと、市の窓口に相談したことから住居改善はスタートしました。

■聴き取り、現地調査

市の作業療法士（ＯＴ）と市の委託を受けているＮＰＯの建築士２名にてＴさん宅にうかがい、ご家族ともども要望を聴き取って建物の間取や状況を確認しました。Ｔさんは出生時に、何らかの要因で、筋肉の動きをつかさどる脳の運動野に受けた損傷により四肢機能に障がいがあり、幼少期から身体の機能維持の為、リハビリに週１回通っています。

初回の聴き取り風景

■要望の概要

【Ｔさん】できる限り自立した生活をしたい。
・住居内から外出まで車いすで自由に移動したい。
・自分の部屋がほしい。（現在 両親と同じ寝室）
・トイレの動作など→可能な範囲で自立したい。
【両親】介護負担を軽減したい
・駐車スペースが敷地内にほしい。（車での外出時に近隣の現況駐車場では不便）
・耐震改修と断熱性能の向上も検討したい。
・台所を広くして，キッチンを新しくしたい。

■問題点

・各部屋において床・敷居などに段差が多く、畳中心の間取で便所、浴室への移動は常に介助が必要。車いすでの生活ができない。
・玄関から道路までは大きな段差が連続している。両親がＴさんを抱き上げて、道路にある車いすまで移動するため、介護負担が大きい。
・Ｔさんが自分でできる生活動作を、現況の住居では活かせない。

以上の問題点を踏まえた上で、ＯＴが日常生活動作を確認。作成したアセスメント表を基本に改善策・計画の検討へと進んでいきます。

※ 改善内容の詳細は見開きのページへ

■連携－「住まい」の再構築－そして自立へ

ＯＴを中心に連携を図り、シミュレーションを重ねながら改善案を検討しました。例えば、便所はショールームで実寸の広さを再現して、便器へ寄りつくスペース・便器の高さ・手すりの位置などを検討しましたが、最終的に現場で動作を再確認した結果、移乗用の手すりは右手、左は肘で手すりを支持することで、動作が安定することがわかり、異なる高さに２か所設置しました。

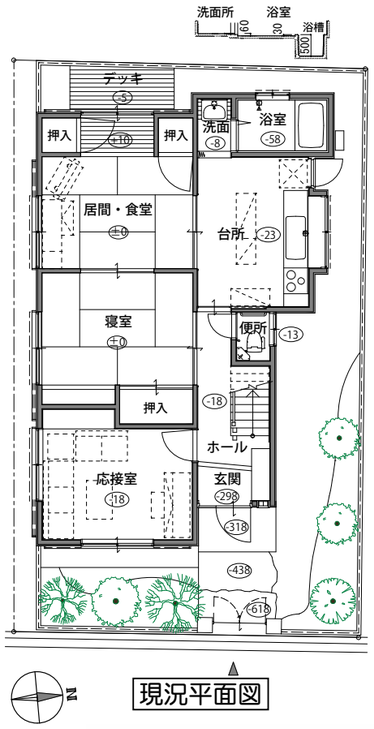
愛着のある「住まい」を再構築したいＴさん家族、それに応えたいみんなの想いが相乗効果となり、より良い住居改善に繋がったと思います。計画途中、住み替えの話もありましたが、Ｔさんの育った住まい・近隣環境への熱い想いが、この住居改善を実現させたと想います。この関わりから、自立センターで働くＴさんにＮＰＯの名刺を依頼するようになり、私の事務所まで名刺を持参してくれた時は嬉しく思いました。Ｔさんの社会活動の広がりと意欲の向上は、この住居改善を機に高まっています。

車いすで快適な生活を送るために

森 隆

■ 事例概要

改造時期：2011 年 3 月～ 2012 年 3 月 (相談～完了)
工事費用：約 880 万円
住宅形式：木造 2 階建、自己所有
築 年 数 ：約 36 年
対 象 者 ：Ｔさん（32 歳）
身体状況：四肢機能障がい 1 級 / 言語障がい３級
家族構成：本人、両親（60 歳前半）
利用制度：ケア連携補助 (補助制度終了)・住宅改造助成・障がい者自立支援法給付
介護状況：屋内は両親が後方から抱えあげて移動。入浴、排泄、衣服の着脱など介護が必要。電動車いすの操作・移動は巧みにできる。
係わった職種：ＯＴ (作業療法士)、一級建築士



現況平面図

■ 外観
左：現況
右：改善後

■ Ｔさんの住居改善ポイント

1. 各段階のシミュレーションから、各動作を確認
2. 車いすの動線を明確にし、スムーズな移動を確保
3. 床レベルを統一、吊戸として車いすの移動に配慮
4. 介護軽減とより安全な住まいに
5. 耐震補強・断熱性能の向上を実施
6. 団欒を大切にする家族の「住まい」

■居間・食堂－明るく－体的な団欒空間－

１室として使える明るい団欒のスペース「住まいの中心」です。大開口により、採光と通風に配慮した。

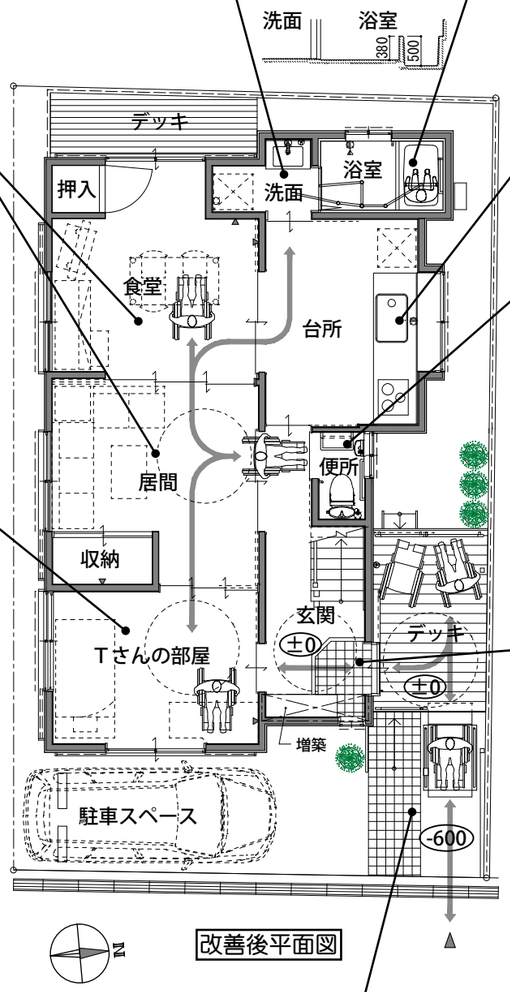
■Ｔさんの部屋－プライベートも楽しく過ごす－

玄関脇の応接間を改修して、Ｔさんが楽しく過ごす空間に趣味のＰＣデスクを創った。自身で車いすに移乗できるように、ＯＴとシミュレーションをして電動式ベッドの導入を決めた。

※ 扉開閉をし易くする為の工夫
車いすから手が届き易いように扉の真中に手掛かり付の引手と扉を全開した時の手掛かりになる取手を設置（Ｔさんの提案）

■洗面室－車いすで寄りつけるように－

車いす対応洗面台で手洗い・洗顔ができるようにした。和室の押入を洗面室側に取り込み、入浴用のリフトへ乗りかえるスペースを広くした。



改善後平面図

■浴室－入浴介護の軽減と安全性－

安全に入浴できるようにリフトを採用した。埋込み式だった浴槽を家族が安全に跨げる浴槽にし、床は滑りにくく温熱性のあるタイルを採用。大型のレバー式水栓で使いやすくした。

ＯＴによるシミュレーション

■台所－奥行の広いシステムキッチン・ＩＨコンロを採用－

■便所－自立度を高める－

奥行きを広げて、介助と車いすの寄りつくスペースを確保した。足がしっかり着くように便器の高さを調整し、座位の安定と立ち上がり・移乗に配慮した２段の可動手すりを取り付けた。プッシュ式水栓手洗器・センサー照明で、動作の軽減も図った。

■玄関・デッキ－スムーズな動線計画－

玄関を増築して、Ｔさんの部屋へ直線でアプローチできる明快な動線計画とした。玄関ドアは自動施錠のリモコン操作式で、ひとりで開閉操作可能。デッキは夜間の外出、安全に段差昇降機を利用できるように、外壁と床にセンサ照明をつけた。

■アプローチ計画－車いすで安全に外出できるように－ (改善案が決まるまで)

Ｔさん：外出の度に両親の介助が必要。両親に負担をかけずに、気軽に外出したい。
玄関にスロープ (斜路) を作れば、自由に出入りできるのでは？
→建築士：スロープは長くなるので、安全性を考慮し、段差昇降機も検討しましょう。
→ＯＴ　：段差昇降機の操作・動作などをデモ機でシミュレーションしましょう。
→Ｔさん：自分の寝室に直接出入りすると見えすぎるので、やっぱり玄関から出入りしたい。
→建築士：玄関前にデッキを新設して、玄関の出入口をかえてみましょう。
→Ｔさん：デッキで、外出用と住居用の車いすに乗り換えたい。
→改善策：屋根付のデッキにして、車いす交換スペースを確保し、移乗用の手すりを設置。

住居改善後の日常生活の変化について －Ｔさん・両親のコメント－

■Ｔさん

こんにちは。私は車いすに乗っていますが、両親が歳をとってきたので、住居の改善をしなくてはなりませんでした。私は住んでいる市の作業療法士に相談をしたところ、「快居の会」を紹介してくれました。建築士２名作業療法士の皆さん７人で、私のために、いろんな事を検討して決めてくれました。打ち合わせでは沢山の希望を建築士にぶつけました。その結果、私の希望が住宅に活かされました。

特長についてご紹介をします。特に、家の中は全部引き戸にしてくれたことです。そこで、私はドアの引手を２つ付けてもらうように提案をしました。引き戸を、一回で開け閉めすることは車いすでは難しく、途中で送りこみが必要で、持ち手を切り替る必要があります。二か所あれば、無理のない体勢で、開閉できます。建築士に相談した結果、このアイディアは具体化しました。

このような対策を３カ月かけて相談をし、工事が着工しましたが、両親には心配が付きまといました。それは、完成時に、100%私が使用出来るかどうかです。

しかし、今では快適に生活ができていることが証明しております。心ある専門家の提案は本当に大切だと思います。

■両親

自宅改造後、３年目を迎えようとしております。息子の行動は朝の起床から就寝まで、改造前は両親である私たちの介助なしでは移動から日常生活のすべての面で必要としていたものが、かなりの部分まで自分で行動していくことができてきました。

日常行動生活の面で自立化が進むと、行動面だけでなく精神面でも意識の改革が進んで、積極性が高まり、いろいろな成長がみてとれるようになりました。たとえば毎日通っているセンターの仕事でも、先頭に立って業務を遂行することが目立ってきて、責任感が生まれてきたようで、センターの職員からの信頼も高まっているようです。

こうした結果は、業務をやりきるために必要な責任感も生まれ、自身の健康にも気を使うことは勿論、職場のメンバーのことを考えて仕事を段取りすることまでに及んできました。

生活の一歩から始まり、以上のような仕事や健康までに拡大して成長が進んでくることは、これまで望みにくかった前向きな考えや意欲も生まれています。自立心が高まってきたことは、本当に嬉しいことです。

今後はさらに積極的に取り組んでもらいたいと思っております。

事務局からのお知らせ

下記ホームページにもアクセスして下さい。福医建研究会、快居の会の紹介をしています。

URL：http://fuku-i-ken.net/

福祉・医療領域と連携した私たちの仕事

□住居改善相談、アドバイス、設計、監理　□住宅の計画、設計、監理
□集合住宅、住施設、高齢者･障害者に配慮した各種建築の計画、設計、監理
□その他の建築、まちづくりに関するのアドバイス、調査、計画、設計、監理

〒540-0036
大阪市中央区船越町 1-6-2-702 アトリエＶＯＩＤ気付
（特活）福祉医療建築の連携による住居改善研究会　住居改善実践事業部　快居の会

快居の会相談スタッフ

＜建　築＞

明石 友宏（双葉都市設計工房）
小倉 勝彦（アトリエＶＯＩＤ）
佐藤 和子（佐藤建築事務所）
中村 英人（中村英人建築設計事務所）
馬場 健一（馬場健一建築研究所）
森　隆　（アトリエフォレスト）
今井 俊夫（今井環境建築事務所）
川上 昌宏（川上建築設計工房）
鈴木 章仁（鈴木章仁建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ事務所）
野田 和子（ｓｐａｃｅ　ｃｒｅａｔｅ）
馬場 昌子（快居の会一級建築士事務所）
上田　猛　（上田猛建築事務所）
北　聖志（ＴＨＮＫ一級建築士事務所）
相馬智香江（アドテック建築事務所）
萩野 隆司（萩野設計工房）
松村 優　（創造福祉空間研究所）

＜セラピスト＞

逢坂 伸子（大東市）
長辻 永喜（藍野大学）
細本 愛子（千里津雲台訪問看護ｽﾃｰｼｮﾝ）
小林 貴代（作業療法士）
林元 光広（訪問看護ｽﾃｰｼｮﾝはやしもと）
山下 協子（作業療法士）
新　雅子（精神保健福祉士）
藤原 太郎（作業療法士）
山田 隆人（大阪保健医療大学）